



# 生活クラブ風車



# 夢風News

Vol.6

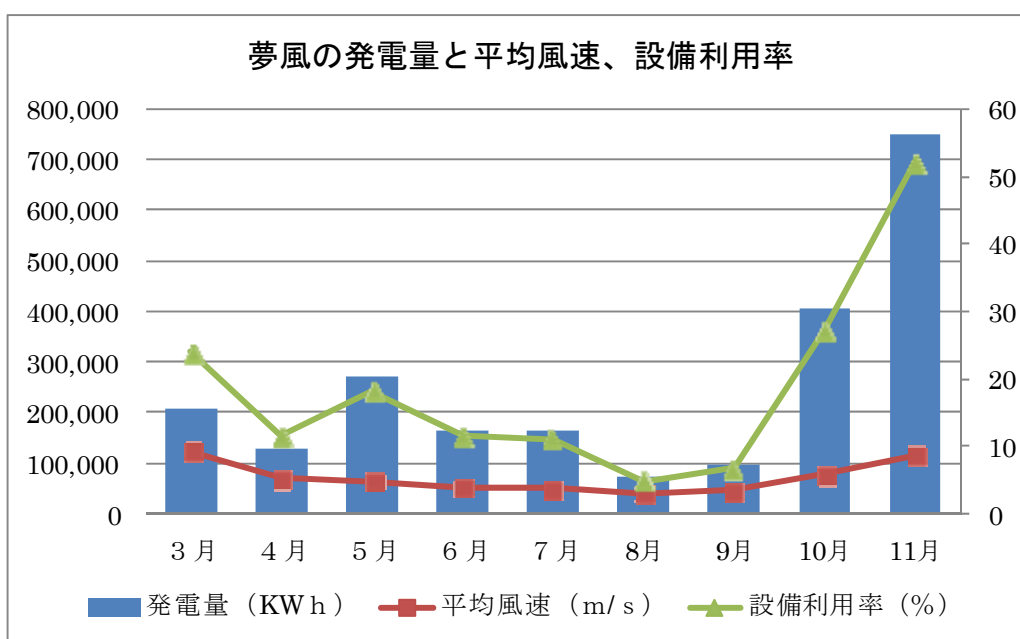
●発行 2012.12.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩 (代表理事) ●編集責任者 鈴木伸予

## ■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
3月	206,112	9.3	24.0	10月	405,211	5.8	27.3
4月	129,551	5.2	11.5	11月	748,652	8.7	52.2
5月	269,955	4.8	18.1				
6月	165,489	3.9	11.5				
7月	164,806	3.8	11.1				
8月	71,746	3.0	4.8				
9月	96,132	3.4	6.7				

- ・ 11月中旬には鳥海山も裾のほうまですっかり雪化粧をし、冬型の気候となり風が強く吹く日が多くなっています。
- ・ この風は、風車にとっては平均風速8.7mと良い風です。発電量748,652kWh、設備利用率52.2%と、とても高い値となりました。【設備利用率】設備容量(1990kWh)に対する発電電力量(kWh)の割合です



## ■研究フォーラム2012「市民参加ですすめる再生可能エネルギーへの転換」生活クラブ神奈川■



1月27日、横浜市開港記念会館にて研究フォーラム「市民参加で進める再生可能エネルギーへの転換～足るを知る社会へ～」を開催しました。基調講演で哲学者内山節（立教大学大学院教授）氏は、今回の福島原発事故を巨大システムに依存してきた社会の問題と捉え、「日本社会は3.11以前から既に経済に依存する社会から、人と自然が共生する社会へと少しずつ変化が始まっていて、3.11福島原発事故を契機にそれが顕著になった。国家に依存しない自立的世界を広げ、社会の大改造を試みながら進めていく時だ。」と述べられました。

後半のシンポジウムでは市民主導・地域主導のエネルギー政策やその実践について共有しました。生活クラブ神奈川の荻原理事長からは、協同組合による風車建設を通して「自分達で使うエネルギーを自分達で選択肢、自治しよう」と進めてきた取組と、この秋神奈川で取組んだ「神奈川県エネルギー・再生可能エネルギー促進条例（仮称）」の制定に向けた署名活動について報告を行いました。

再生可能エネルギーの推進に向けては法制度がある一方で、政策づくりへの参加のしくみが重要であり、市民主導・地域主導で実践を広げていくことの必要性を再認識しました。

城田喜子（神奈川副理事長・研究フォーラム2012実行委員長）

## ■いま求められる共同体自治 ～食とエネルギーの共同体自治～ 生活クラブ千葉 ■

生活クラブ千葉の環境委員会では、12月7日、宮台真司（社会学者、首都大学東京教授）氏を招いて学習会を開催しました。

宮台氏は、自然エネルギー社会に実装しようとするプロセスにおいて共同体が再生していくといいます。再生可能エネルギーは不安定であるからこそ、使う側がコントロール（自治）すること、まさにエネルギーの共同体自治が必要なのだという。そして、共同体自治の実現に必要なのは、強力な「価値」と徹底した「リアリティー」であり、それをシェアすることで地域を社会を「我々のもの」にしよう！さもないと生き残れないのだからと。また、都市における共同購入の実践という、共同体としての生協へ期待すると述べられました。

最後に、「参加と包摂を強めてどのように共同体自治を作っていくのかが、生活クラブの使命だと思います。私たち一人ひとりが考え方を換え、共同体自治の中で変わっていくことが必要です。食やエネルギーの自治による持続可能な社会、ひとりひとりが包摂される社会づくりをすすめていきたいと思います。」と、生活クラブ千葉の新保ちい子理事長からまとめの挨拶がありました。





まずは、私の会社を簡単に紹介させていただきますと、家族だけで営んでおります製麺所です。地元を基盤に創業以来80年間地元の皆さんに支えられ経営させてもらっています。

商品は、乾麺・生めん・茹めんを扱っており、主な取引先は地元のスーパー・食堂・物産館・病院・学校給食などに納めております。弊社の主力商品であります乾麺の象潟うどんは、昔から地元の人に支持されておりましてにかほ市の特産推奨品に選ばれております。

今回、生活クラブさんの方でも象潟うどんを扱っていただきました。小さいながらも、自分で作った麺を1人でも多く方に知ってもらいたいという思いでしたので新しいお客さんに商品を知って頂く機会を作って頂き、大変嬉しく思っております。

風車建設が始まる前から、我々と積極的に接触をとっていただき生活クラブさんは、食への関心が非常に高く、納得いくまで工場に足を運んでおられました。そういう姿を見ていますと、この風車をきっかけに食への繋がりを強く求めているのだと感じ、また安心してたべられる商品をさがしているのだと痛感しました。

私たちがそれに応えようと、行政と連携し新商品の開発まではいかずとも既存の製品を見直し、改めて食への安心・安全・健康を考えさせられました。そのお陰で、限定ではありますが首都圏の生活クラブの店舗（デポ）で販売させてもらえる事ができました。

首都圏の販売と言うのは、敷居が高いものです。しかも、生活クラブさんの店舗にいくお客様は人一倍食への関心が高いと認識しておりましたので、そのお客様の目に触れることだけでも私にしてみれば有り難いチャンスをいただきました。

また、6月30日に「にかほ市大物産展」を開催してもらい首都圏での対面販売を行なう機会をいただきました。400名が参加という盛会で、会員の皆さんと交流を深め、また食への関心が高い会員だけに厳しい質問などがあり、ダイレクトな貴重な意見を沢山いただきました。生産者にとって何よりお客様の声が高く貴重であり、また財産でもあります。

イベントの中で感じたことは、首都圏では沢山の食品が溢れている中で、私たちが昔から食べられている郷土の食品などのソウルフードにとっても興味をもっている様子でした。地域を知ってもらう上で食は非常に重要なポイントのひとつであります。特産品を製造する私たちは製品の品質を向上させながら、行政と連携し食から地域を活性化して行かなければならないと思います。

風車建設をきっかけに人の繋がり食の繋がりが出来た事は確かです。自分にとっては今後の食のありかた、販売のビジョンをぼんやりとはありますがイメージでき、まさに自分の気持ちの中に「新しい風」が吹いたのではないかと考えています。



### にかほの風だより ③

秋田県にかほ市の情報を、にかほ市役所総務部企画情報課広報広聴班班長の渡部尊志さん（写真）にお伺いします。

12月に入ってから、にかほ市は曇り空が続いています。日本海から吹き付ける風も、日に日に強さを増し外に出かけるのも億劫になる今日この頃です。

しかし、海沿いに立つ夢風を見上げると、勢いよく回る様子が見られます。今までじっと耐えるだけの風がクリーン

エネルギーを生み出し、そのエネルギーが交流のある方々に使用される。新しく始まった地域間連携に希望が広がります。

1月24日、浅草馬道地区町会連合会との姉妹地交流として東京都台東区の浅草神社の境内で「秋田にかほ市大物産展」を行いました。「象潟」を領有する本荘藩主の下屋敷があった地が、明治になって「象潟町」と名付けられたことを縁としてはじまった交流で、同神社での物産展は4回目です。その元となった国指定天然記念物「象潟」は、夢風の建つ場所から山形方面に車で5分ほど走ると見えてきます。昔、百数十の島々を浮かべた文字通りの潟で、古くから松島と並び称された景勝地でした。



芹田漁港から見る夢風



九十九島と鳥海山

俳人松尾芭蕉が訪れた最北の地として知られ、小林一茶、正岡子規など多くの文人が訪れています。文化元年（1804年）の地震で地面が約2メートル隆起し潟は失われてしまいましたが、島々は今なお水田の中に点在し、春、田植えの時期になると水の張った水田に当時の面影を見ることができます。